

## 定年退職後の土木技術者の活動に対する意向 — 2022 年度調査結果の速報 —

|               |     |         |
|---------------|-----|---------|
| 国立研究開発法人土木研究所 | 正会員 | ○ 山崎 廉予 |
| 大成建設(株)       | 正会員 | 加藤 隆    |
|               | 正会員 | 高橋 麻理   |
| 日本工営(株)       | 正会員 | 黒田 武史   |
| 政策研究大学院大学     | 正会員 | 日比野 直彦  |

## 1. はじめに

わが国の高齢化率は、先進諸国の中では最も高水準で推移しており、2021 年には 28.9%にまで達している<sup>1)</sup>。建設業界においても高齢化は顕著であり、2020 年の就業者における 29 歳以下の割合が約 12%であるのに対し、55 歳以上は約 36%であり、55 歳以上が 20 歳代の 3 倍にもなっている<sup>2)</sup>、また、建設業界の就業者数は減少が続いており、2022 年には、最も数が多かった 1997 年の 685 万人から約 30%減の 479 万人にまで落ち込んでいる。さらに、建設コンサルタント白書では、「2021 年における 20～30 歳代の若手技術者の離職者の比率は、売上 100 億円以上の企業では約 86.2%と非常に高く、さらに年々増加傾向にある」と報告されており<sup>3)</sup>、人材不足、特に若手技術者不足は、建設業界において大きな問題となっている。技術伝承、担い手の処遇改善、働き方改革、生産性向上等に対する課題も多く、定年退職後の土木技術者の活動実態を把握することは、今後の対策を検討する上で重要なことである。以上の背景を踏まえ、本稿では、土木学会 教育企画・人材育成委員会 成熟したシビルエンジニア活性化小委員会（以下、成熟シビル小委員会）の活動として、筆者らが 2022 年度に実施した調査の結果を速報として示す。

## 2. 土木技術者の定年退職後の活動に関する意向と実態についての 5 年毎の定点調査

筆者らは、土木技術者の定年退職後の活動についての意向と実態を把握することを目的として、2007 年度から土木技術者個人を対象としたアンケート調査を実施してきた。2007 年度に実施した調査（以下、2007 年度調査）は、団塊世代が 60 歳を迎え、一斉退職することの影響を明らかにすることを目的としており、土木学会誌で結果を公表している<sup>4)</sup>。その後、2007 年度調査と共通の質問を設けたアンケート調査を、2012 年度<sup>5)</sup>、2017 年度<sup>6)</sup>（以下、2017 年度調査）と 5 年毎に実施し、定点観測を行っ

ている。そして、2022 年度は、2021 年の高齢者雇用安定法の改正、原材料の高騰による建設費の圧迫、人材需要の高まり等の土木・建設業界の環境変化や、新型コロナウイルス感染症の流行等による働き方の見直し等を踏まえ、同様の調査を実施した（以下、2022 年度調査）。なお、2022 年度調査には、WEB アンケートツールを適用している<sup>7)</sup>。紙面制約上、調査内容を詳しく記載できないため、詳細は次ページの QR コードで示すホームページで確認していただければ幸いである。

## 3. 2022 年度 土木技術者の定年退職後の活動に関する意向・実態調査の概要と速報結果

2023 年 2 月 28 日に終了した 2022 年度調査の概要と速報結果を示す。表-1 に、質問項目の抜粋を示す。回答者の属性により質問数は異なるが、回答者の大部分を占める定年退職前の方の質問数は 24 問程度である。主な質問内容は、「現在の就労状況」、「定年退職後の活動希望」、「定年退職後の土木技術者に対する意見」、「働く環境変化の影響」等である。2022 年度調査の主な結果を、2017 年調査との比較を踏まえ、図-1～4 に示す。図-1 に、業種別のサンプル数を示す。総数は、2017 年度調査は 3,151 人、2022 年度調査は 3,318 人であり、ほぼ同程度である。業種は、割合に差はあるものの、どちらも建設業、コンサルタント、地方公共団体・官庁・独立行政法人が主である。図-2 に、2022 年度調査サンプルの年齢階層を示す。50 歳代が最も多く約 34%、次いで 40 歳代が約 20%、60 歳代が約 17%である。図-3 に、シニア土木技術者の就労継続に対する意見別の回答者数を示す。図-3 より、就労継続に肯定的な意見はどちらの調査においても同程度であるが、否定的な意見は 2022 年度調査で増加していることが見て取れる。就労継続に否定的ではあるものの、その理由として「仕事以外の活動をして欲しい」、「健康上の不安」などが増加しており、残された人生を就労継続よりも大切なも

キーワード 土木技術者（シビルエンジニア）、定年退職、高齢者、アンケート調査

連絡先 〒305-8516 茨城県つくば市南原 1-6

国立研究開発法人 土木研究所 先端材料資源研究センター TEL 029-879-6765

表-1 質問項目

|                            | 現在の状況の場合分け<br>(主なものを選挙) | 定年前<br>就労中 | 定年後<br>就労中 | 就労なし<br>※2 |
|----------------------------|-------------------------|------------|------------|------------|
| 質問内容                       | 内容概要                    | 質問数(選択式)   |            |            |
| 現在の状況                      | 就労状況、立場、年収等             | 5          | 8          | 5          |
| 自身の定年退職後の活動※1              | 就労希望の有無等                | 2          | 2          | 2          |
| 定年を目前にした当時の状況※1            | 就労希望の有無等                | －          | 4          | 4          |
| 再雇用就労当時の状況                 | 就労希望の有無等                | －          | －          | 6          |
| 定年退職後のシビルエンジニアの<br>就労や社会活動 | 就労希望の有無、求めること等          | 5          | 4          | 3          |
| 働く環境の変化                    | 社会情勢、スキルアップ             | 4          | 4          | 4          |
| 基本情報※1                     | 年齢、性別、就労形態等             | 8          | 8          | 7          |
|                            | 質問数                     | 24         | 30         | 31         |

※1回答内容によって、設問数が増減する場合があります

※2再雇用制度を利用した就労を経験したことがあり、就労を終えた方

| 自由記述                                                                  |
|-----------------------------------------------------------------------|
| ・定年後または定年退職後のシビルエンジニアの就労や社会活動について、シニアに求めること、社会に求めることへの意見、アンケート全体への意見等 |

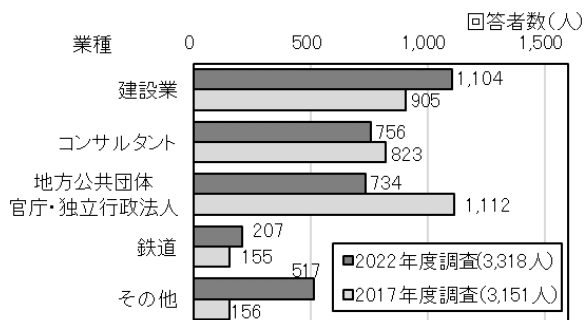


図-1 業種別サンプル数

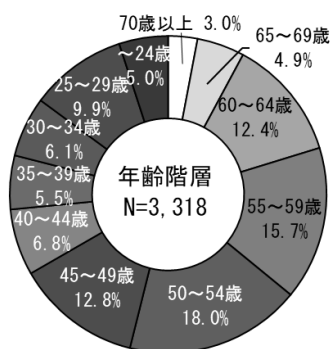
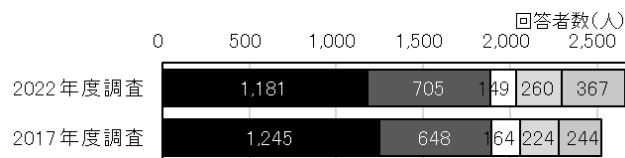


図-2 2022 年度調査サンプルの年齢階層

のに使って欲しいという高齢者への配慮も見受けられた。またその逆に、肯定的な意見であっても、これまでの経験を活かして「相談相手として必要だから」、「次世代育成のための必要だから」という理由は減少しており、「労働力として必要だから」という理由が増加している。これらからも就業者、特に若手技術者の減少が深刻な問題であることが読み取れる。図-4は、「定年退職後の活動において土木技術者に対して望むこと」についての自由記述に対して、テキストマイニングツール<sup>8)</sup>を適用し、視覚化したものである。2017年度調査において多頻度で記述された家族団欒が2022年度調査でなくなったのは興味深い。豊富な経験、技術・技能の伝承、照査等は、どちらにも入っており、5年経っても変わらない重要なものであることが読み取れる。これらについては引き続き分析し、成熟シビル小委員会のホームページ等にて結果を公表する予定である。



- 今までと同様に就労して欲しい
- 勤務時間を短くして就労して欲しい(肯定的な理由)
- 勤務時間を短くして就労して欲しい(どちらともいえない)
- 勤務時間を短くして就労して欲しい(否定的な理由)
- 就労しないて欲しい

図-3 シニア土木技術者の就労継続に対する意見別の回答者数



図-4 定年退職後の活動において土木技術者に対して望むこと（自由記述を用いた視覚化）

#### 4. おわりに

土木技術者の定年退職後の活動について、時代とともに変化するもの、変化しないものをより正確に把握し、状況が激しく変化する中でも、変わらずに大切にすべきものは何かを見極め、それらを考慮した対策を行っていくことは重要である。本稿では、2022 年度調査の結果の一部を 2017 年度調査と比較し、5 年間の変化を速報として報告した。労働力確保や技術伝承のために就労を継続して欲しいという意見がある一方、他の活動をして欲しいという意見もあり、実態把握に向けては、属性等を考慮した詳細な分析が必要である。さらに、2007 年度からの変化についても分析することを計画している。

謝辞：調査の実施にあたり、回答者の皆様には多大なるご協力をいただいた。ここに記して感謝の意を表する。

## 参考文献

- 1) 内閣府：令和4年版 高齢社会白書，2022.
  - 2) 国土交通省：最近の建設業を巡る状況について【報告】，2021.
  - 3) (一社) 建設コンサルタンツ協会：令和4年度 建設コンサルタンツ白書，2022.
  - 4) 日比野，大野：定年退職後の団塊世代，土木学会誌，Vol.92，pp.22-24，2007.
  - 5) 日比野，加藤，角田：シビルエンジニアの定年退職後の活動に関する意向と実態，土木学会論文集H，Vol.71，No.1，pp.58-69，2015.
  - 6) 土木学会 教育企画・人材育成委員会 成熟したシビルエンジニア活性化小委員会ホームページ，  
<http://committees.jsce.or.jp/education05/>
  - 7) QUESTANT ホームページ，<https://questant.jp/>
  - 8) ユーザーローカルAI テキストマイニングツール，<https://textmining.userlocal.jp/>
- 

